

二宮小学校だより



二宮町立二宮小学校学校だより
令和4年度 第2号 (7/20 発行)

感染防止への配慮と教育活動の工夫の両立に努めてきた1学期も終わりとなります。6月末に続いた猛暑日から一転して「梅雨の戻り」となるなど、天候に振り回されることもたびたびありましたが、子どもたちの体調管理・安全確保など、日頃から保護者の皆様、地域の皆様にはご理解・ご協力いただき、本当にありがとうございました。

行事の取組を通じて

1学期の最大の行事は、「にのリンピック 2022」(運動会)でした。今年度も密を避けるため、2学年ずつの3部制で実施しましたが、どの部でも「上学年らしく運営に参画する」「下学年でも場を盛り上げる」ことが自然に行われていました。



どの学年も、「体を大きく動かす」「手足の先まで意識する」「BGMや周りの動きに合わせる」表現運動、「練りに練った作戦で臨む」「友達とのチームワークを大切にする」団体競技、「友達だけでなく、最後は自分の気持ちと戦う」徒競走の3種目に取り組みました。

苦手な動きでも苦戦してもあきらめずに取り組み、負けても相手をたたえ、困っている友達をさりげなくフォローする。状況をとらえ、速やかに適切な行動をとる。運動会をはじめとする様々な行事を積み重ねる中で、私たちは子どもたちがこのようなことを学び、成長することをねらって取り組んでいます。

植物の成長から

小学校では、生活科や理科などの学習の一環として、栽培活動を行うことがたびたびあります。「獲れたもので調理する」「生きるものを育てる楽しさ・難しさ・責任を感じる」「植物のつくりを観察する」など、様々な目的で行われています。私も家庭菜園で、食卓に供するためではありますが、バジルとつるなしインゲンを手掛けています。



個体や天候、土壌、世話の仕方など、様々な要因で育ち方が違ってきますが、いずれにしても、地道に取り組み、状態が悪ければ適切に手立てを講じて様子を見ることの繰り返しです。

子どもたちは、毎年の栽培活動を積み重ねる中で、このようなことを学んでいきますが、この植物の成長のありさまから、教育にも通じる「環境づくり」「地道な取組」「手立ての妥当性・適時性」などの大切さを学ぶことができます。ただし、子どもの成長はもっともっと息の長い取り組みとなりますが…。

豊かな学びへの感謝

コロナ禍とはいえ、天候や感染防止に配慮しながら、町役場各課や各種ボランティアの皆様には、貴重な学びの場づくり、癒しの環境づくりにご尽力いただき、本当にありがとうございました。



2学期も長い期間の中で、校外学習や音楽会などの行事がありますが、各学年ともに、子どもたちにとってさらに豊かな学びとなるよう知恵を絞り、尽力していきます。保護者の皆様、地域の皆様には引き続きお力添えのほど、よろしくお願い致します。